

心の居場所をつくる サポートベース函館

《 概要 》

- 本市における不登校児童生徒数は、年々増加傾向にあり、その背景や要因、状態は多様化している。
- そこで、対象を限定せず幅広く受け入れ、一人一人のニーズに合わせた支援を行い、学校生活や社会的自立への意欲を高めていくことを目的に、令和5年度から「サポートベース函館」を函館市南北海道教育センター内に開設し、不登校児童生徒の支援を行うこととした。
- 特に、本教室の他、個別学習室やくつろぎの間などを設置し、一人一人の状況に応じた学びの場としての充実を図った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性

- 児童生徒一人一人のニーズに合わせた支援の充実
- 保護者及び在籍校との連携の充実
- 生活リズムの改善と学習支援の充実

相談・支援、取組等の状況

- ・指導主事、指導員及び支援員が、不登校児童生徒と教職員やこころの相談員との教育相談の内容等について、毎朝打合せを行い、児童生徒一人一人の情報を速やかに共有した。
- ・共有した情報等を踏まえ、その日に登所する児童生徒の支援方法を指導主事、指導員及び支援員全員で確認した。
- ・登所時に学習や活動の計画表を記入する時間を設定し、学習及び活動内容について自己決定する機会を確保した。
- ・保護者や児童生徒との教育相談の機会を設け、今後の方針等について共通理解を図った。
- ・不登校の要因や状況に応じた環境づくりや、適切な支援の充実を図った。
- ・出席日数や学習評価の参考にできるように、在籍校に通所日時や学習内容等を月ごとに伝え、連携を図った。
- ・生活リズムチェック表を活用し、毎日の生活状況を可視化させるとともに、指導員がコメントを書き込んだり、機会を捉えて助言したりした。
- ・個別学習室を設置し、人と接することが苦手な児童生徒や気持ちが不安定な児童生徒が安心して利用できる環境づくりに努めた。



《 取組の成果 》

- 利用対象者を限定せず幅広く受け入れたことや、児童生徒一人一人のニーズに合わせた過ごし方ができるようにしたことで、利用者の増加につながった。
- 学校等と共有した情報に基づいた支援を行うことにより、目標をもって学習活動に取り組もうとする意欲の向上につながった。
- 生活リズムチェック表を活用し、生活状況を可視化したことにより、主体的に生活改善を図り、学習に取り組む児童生徒の育成につながった。また、個別学習室を設置したことで、安心して利用できるという児童生徒や保護者からの声が多数聞かれた。

適応指導教室（マイウェイ）の通級を通して、身体の不調から克服した事例

《 概要 》

- 当該生徒は、中学校第1学年の9月ごろに、右腕が全く動かすことのできない原因不明の病気により入院した。
- 退院後は、しばらく自宅からリモートで授業に参加していたが、右腕が動かないことから気持ちが落ち込み、精神科に通院していた。
- 中学校第2学年4月から、適応指導教室（マイウェイ）への通級を開始し、適応指導教室を利用する他の生徒と関わるうちに、右腕が回復し元気に明るく過ごすようになった。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性

- 不安感を取り除き、学習や進学への希望をもたせる取組
- 自身の学習レベルに応じた授業計画
- 高校見学などへの参加
- 体力づくりへの不安解消に向けた取組
- 希望する進路の実現

相談・支援、取組等の状況

- ・当該生徒は、右腕が動かない状況から気持ちが落ち込み、中学校第2学年4月から適応指導教室（マイウェイ）へ通級し始めた。
- ・通級当初、別室において、指導員に心を開いて話すことができるよう、カウンセリングを行った。
- ・学習や進学について相談できる関係づくりや、安心して通級できる居場所づくりに努めた。
- ・支援員が、苦手な教科を中心に、分かりやすいよう教材・教具を工夫したりするなど、学ぶ楽しさを感じることができるよう指導を行った。
- ・適応指導教室において、通信制高校の見学を企画し、他の生徒と一緒に楽しく参加することができた。
- ・適応指導教室で充実感を味わいながら過ごすことにより、右腕が不自由であるが、次第に体力づくりの時間にも参加するようになった。バレーボール、バスケットボール、卓球、バドミントンなどの運動に参加し、左腕を上手に使ってプレーしていた。
- ・11月下旬に、当該生徒の右腕が突然動くようになり、大きな声で喜びながら来室し、その後、学習面や運動面において、明るく元気に取り組む姿が見られた。
- ・右腕の回復後は、適応指導教室の閉室時刻まで、学習や他の生徒とのふれあいを楽しみに過ごしている。
- ・希望する進路に向けて、学習に積極的に取り組むとともに、登校も意識し始めている。

《 取組の成果 》

- 当該生徒に寄り添い、希望の学習内容に合わせて指導したことで、当該生徒は前向きに過ごすことができるようになった。
- 適応指導教室で他の生徒と関わりながら、高校見学や体力づくりなどを行なうことにより、学習意欲の向上につながり、身体の不調からの克服にもつながった。
- 毎週、適応指導教室と学校が情報交換を行なったことにより、同じ方向性で支援することができた。

安心できる居場所の確保と基礎学力の定着

《 概要 》

- 当該生徒は、中学校入学後、部活動に熱心に取り組み、第1学年の2学期に行われた学校行事では、学級のリーダーとして周囲から信望を得ていた。
- 小学校在籍時には不登校の傾向は見られなかったが、身体的な悩みに関する不安から登校できなくなり、教育支援センターの利用に至った。
- 教育支援センターでは、不安や悩み、進路選択などについて、相談できる関係づくりや安心して通級できる居場所づくりに努めた。
- 当該生徒の興味・関心に基づいた活動目標を設定し、基礎学力の定着を目指すことにより、自己肯定感と向上心の育成を図った。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性

- 居場所及び交流の機会の確保
- 基礎学力の定着及び各種テストへの参加
- ICTの活用による学校との連携

相談・支援、取組等の状況

- ・当該生徒は、身体的な特徴に関して、周囲から好奇な目で見られているのではないかという不安から学校に足が向かなくなったため、不登校に至った経緯等に触れることを避け、家庭や自分のことについて話す機会を通じて、コミュニケーション能力の向上を図った。
- ・通級している生徒同士の親交が深まるよう、他の生徒と一緒に、当該生徒の得意なスポーツやゲームなどを行う機会を設定した。
- ・国語、数学、英語の学習内容を理解するという目標を掲げ、教科書や問題集に取り組み、定期テストや学力テストなどを受けることができた。苦手意識の強かった英語の学習においても基礎から取り組み、学ぶ楽しさを感じることができるようになってきた。
- ・当該生徒と学校とのつながりを維持するため、1人1台端末を活用して、毎日の健康チェックや授業進度、テスト範囲の確認及び行事や進路の情報、級友からのメッセージの受取り等を行う機会を設定した。
- ・数学では、学校と連携してWeb会議システムを活用したオンライン授業を視聴し、学校の授業進度に合わせた学習を進め、定期テストや学力テストなどを受けることができた。

《 取組の成果 》

- スポーツやゲームなど、当該生徒が得意なことを中心に他の生徒との交流を深める取組を行ったことにより、自己肯定感を育むとともに、継続した通級につなげることができた。
- 当該生徒が自ら立てた学習計画に基づき、学校と連携して学習支援を図ったことにより、新たな課題に取り組もうとする意欲の向上につながった。
- 学校と教育支援センターが連携し情報共有を図ったことにより、進路選択に向けた学校見学等を経験させることができた。

将来の社会的自立を見据えた支援体制

《 概要 》

- 町内の小・中学校に在籍する児童生徒のうち小・中学生合わせて 10 名程度が継続して登校していない状況にあった。
- 令和5年度から、鹿部町教育支援センター「マイルーム」を立ち上げ、専門の指導員 1 名を配置し、児童生徒、保護者、学校等への支援を行っている。児童生徒に対しては、安心して通い、過ごすことにより「登校を含めた自立への道」を見据えながら支援を行っている。
- 学校やスクールカウンセラーと連携し、児童生徒及び保護者との教育相談の充実に努めている。

《 相談・支援等の実際 》

目標・方向性	相談・支援、取組等の状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校の取組を推進する体制等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒を生まない取組やきめ細かな対応への理解を図るため、教育委員会及び各学校で不登校対策プランを共有している。 ・各学校に不登校等対応の中心的役割を担う教育相談コーディネーターを配置し、児童生徒の支援状況の把握などを行っている。 ・教育支援センター指導員と教育相談コーディネーターが情報の共有などにおいて連携を深め、児童生徒及び保護者に対し、同じ歩幅での支援に努めている。 ・児童生徒の体調やペースに合わせて、来室の日数や時間を決めて活動を展開することができるよう、教育支援センター指導員を配置している。 ・活動内容は、学習や趣味等に応じ、一人一人の希望により設定することができる。また、地域の方が講師(調理・体操)となり、不登校等支援に参画することで、児童生徒の応援団を増やし、地域で過ごしやすい環境の醸成に努めている。 ・学習や登校に対する不安など、児童生徒及び保護者の心に寄り添った教育相談を展開している。 ・教育委員会、学校及びスクールカウンセラーが連携を深め、児童生徒及び保護者の「悩み」「困り」に確実に対応できる体制を整えている。 ・不登校に関する相談窓口や不登校になった際の対応などに係る啓発資料を作成し、学校、児童生徒及び保護者に周知している。
<ul style="list-style-type: none"> ○ 安心して過ごせる居場所として教育支援センター「マイルーム」を開設 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ きめ細かな教育相談の充実、啓発資料の作成 	

《 取組の成果 》

- 町内、学校及び保護者に教育支援センターの取組を継続して啓発することにより、多くの人に浸透し、理解が深まってきている。
- 教育支援センター「マイルーム」を利用する児童生徒が対象の約半数を超え、一人一人が学習や趣味などの課題を持ち寄り、自主的に活動できるようになってきている。
- 学校及びスクールカウンセラーとの連携を深め、様々な悩みや困難を抱える児童生徒及び保護者と継続した教育相談を展開することにより、社会的自立を考える一助となっている。